

新春特別誌面

座談会



〈出席者〉

今年最初のセッションは、玉城知事を招いた誌面座談会をお届けします。

県の進める医療政策や経済政策を中心に、出席者にはそれぞれの立場から現状や今年の抱負を語ってもらいました。



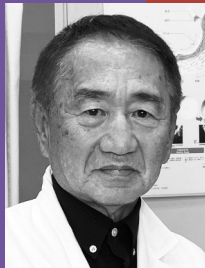
沖縄県知事
玉城デニー



琉球大学大学院医学研究科第一内科教授、沖縄県新型コロナウイルス感染症専門家会議座長、(株)沖縄臨床検査センター最高顧問
藤田次郎



沖縄ツーリスト(株)代表取締役会長、観光庁VISIT JAPAN大使
東 良和



(株)沖縄臨床検査センター代表取締役社長、西町クリニック院長、前那覇市医師会会長、元沖縄県政策参与
真栄田篤彦



公立大学法人福島県立医科大学理事長兼学長、(株)沖縄臨床検査センター顧問
竹之下誠一



(医)陽心会理事長、(株)沖縄臨床検査センター顧問
高良 健

PCR検査と抗原検査を充実させる

高良 明けましておめでとうございます。今回はご多忙の中、誌面座談会にご出席いただきありがとうございます。玉城知事には医療や経済を中心に県の政策をご説明いただき、出席いただいた方にはそれぞれの立場から意見を伺いたいと思います。さつそくですが、まずは玉城知事に、未だに猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症につきまして、PCR検査の重要性和検査体制の拡充についてお話しいただきたいと思っています。

玉城 明けましておめでとうございます。県では新型コロナウイルス感染症の流行が持続している状況においても、社会経済活動を維持・継続していくため、検査の拡充は必要だと考えております。そのため昨年11月補正予算に、先行的なモデル事業として、新型コロナウイルス感染症のPCR検査強化事業の予算を計上したところです。また、医療機関や民間の検査機関に対しPCR機器の整備を図っており、昨年12月中には1日におよそ3400検体のPCR検査と約3600検体の抗原検査が可能となりました。さらに検査費用につきましては、行政検査および保険医療検査

ともに、患者本人に負担を求めず公費で負担することになっております。

高良 ありがとうございます。琉球大学も沖縄県とさまざまな連携を取っていますが、そのあたりを藤田教授にご説明いただけますか。

藤田 新型コロナウイルス感染症については、島嶼県である沖縄はある意味で対策を取りやすい環境にあるといえます。琉球大学では沖縄県の協力をいただきながら、観光客を対象に、より簡便な迅速検査が実

施できないか臨床研究を行っているところです。沖縄県との連携でいえば、県立病院で研修を受けている本土の優秀な研修医の沖縄定着を促進していくことも、私どもの使命の一つと考えています。若い医師には専門医志向が非常に高まっていますし、医学博士の学位取得も求められます。そこに琉球大学がうまく関わっていただければと思っています。

また、県立北部病院と北部地区医師会病院の統合も大事なポイントです。医師会病院はその設立から私たち第一内科と深い関わりがありますので、県立北部病院と一体化し、私どもも医師を派遣することで、北部地区の医療をさらに充実させていくことができるものと考えます。

さらには薬剤師を養成する教育機関の県内設置に関すること。なぜ沖縄に必要なのか。まず、医師や看護師は県内に養成できる大学がありますが、薬剤師を目指す人は県外に出なければなりません。また、沖縄には民間療法として伝統的に摂取されている薬草が数多くありますが、残念なことに体系化されていません。沖縄には海洋資源も数多くありますので、それが薬剤師を養成する教育機関で体系化できるのであれば意義深いものになります。そのあたりも皆さんと知恵を出し合いながら進めていきたいですね。

高良 ありがとうございます。株式会社沖縄臨床検査センター代表の真栄田先生は沖縄県の政策参与も務められていましたが、実際にPCR検査に関わっている立場から意見をお聞かせ願えますか。

真栄田 現在、わが国の医療政策は100年前のスペイン風邪の時とさほど変わっていません。感染の流行

初期ならまだしも、市中感染となるとどこに感染者がいるのか分からない。家庭内感染が広がっているのは、無症状の人たちが家に帰って普通に生活しているからです。やはりPCR検査の数を増やして、新規感染者は隔離すること。その上で陰性と診断された人には、仕事も旅行も思う存分してもらおう。これが感染症対策の原則です。せっかくPCR検査という武器を持っているのに、それを使わない手はないと考えております。

あと藤田教授もお話しされましたが、沖縄の医療全体を見渡した時、県立病院と琉球大学の連携は不可欠です。かつて大学病院がなかった沖縄は、離島を含めた各ブロックで医療を完結しようということと独自の発展を遂げてきた経緯があります。いずれにせよ教育・研究部門は琉球大学が担い、各県立病院は実践の研鑽を積むところという形が望ましいと思います。特に県立中部病院は研修医の研修機関として全国的に高い人気を誇っていますが、研修を終えると優秀な研修医たちは全員沖縄を離れざるを得なくなつてきます。それを食い止めるためにも琉球大学との連携が必要ということですね。

高良 ありがとうございます。真栄田先生のおっしゃるように、PCR検査で陽性と診断された新規感染者が一定期間、人との接触を避けることは重要なポイントです。それに、軽症者が少なれば重症者も少なくなり、それで医療機関が安定します。なにより街中に感染者が広がらなければ、県民が安心して生活ができ、経済活動も活発になります。

さて、今回は福島県立医科大学で理事長兼学長を務める竹之下先生にもご出席いただいております。沖

縄との関連も含めてお話しいただきたいと思います。

竹之下 はい。震災直後に壊滅的な被害を受けた福島県の浜通り地区の医療体制も、10年を経て次第に整備されてきました。その浜通りでは現在「福島イノベーション・コースト構想」が進行しており、医療分野も重点項目とされています。

例えば、核医学教育研究推進というテーマに関して、本学は主導的な役割を果たしています。具体的には、アスタチンというアルファ線核種を用いた前立腺がんの治療法の研究です。アルファ線核種による治療は高い治癒率を期待できるのですが、その治療に必要なアクチニウムという核種の供給量が世界的に不足しています。本学は日本で唯一、医療目的に特化した中型サイクロトロンを持っており、この装置を使って、同じアルファ線核種であるアスタチンという物質の高い品質で安定的に製造することに成功しました。まだ技術的にも法的にもクリアすべき課題はありますが、このアスタチンを利用した前立腺がんの治療法を確立させ、急増する前立腺がん患者さんへ朗報を届けたいと考えています。

そして、その治療を実践できる病院の一つを沖縄に建設する構想も持っています。沖縄県は2014年に国際的なイノベーション拠点形成を目標に、県内全体が「国際観光イノベーション特区」として国家戦略特区に指定されています。今回の核医学治療の診療開始は、国内および国外(特にアジア地域)の核医学治療を望んでいる患者を沖縄に集めることができ、リゾートアイランドの沖縄で治療と観光を兼ねるという沖縄県への経済効果も期待できるのです。

アフターコロナを見据えた施策

高良 さて、玉城知事に伺います。コロナ禍における沖縄県の経済政策はどのようなものでしょう。

玉城 県では沖縄県の経済対策基本方針に基づき雇用調整助成金の活用促進や、県独自の上乗せ助成を行うなど、雇用の維持を図るための施策を重点的に実施しております。また、就職困難者等への再就職支援や生活支援、新規卒卒者の就職支援等の取り組みを強化しております。併せて、県融資制度による資金繰り支援のほか、事業者の需要回復に向けたプロモーション支援や収入確保のためのEコマースの導入支援など、感染状況を踏まえた重層的な対策を実施しております。さらに、ウィズコロナの「新しい生活様式」に対応したビジネスモデルの促進や、各産業分野におけるデジタルトランスフォーメーションの加速化を進めると共に、スタートアップ企業の創出等の取り組みにより、イノベーションによる強靱な経済構造への転換を図っております。

高良 「沖縄21世紀ビジョン基本計画」や「新沖縄発展戦略」、SDGsの取り組みはいかがですか。

玉城 沖縄県は昨年3月に沖縄21世紀ビジョン基本計画等総点検報告書を取りまとめ、今後も沖縄振興特別措置法に基づく特別措置が必要との方向性を示しました。そして、総点検の結果に加え、新沖縄発展戦略を踏まえると共にSDGsを反映させ、さらにはウィズコロナからアフターコロナに向けた将来を見通す中で未来を先取りし、日本経済の一端を担うべく

藤田 今年5月7日から9日までの3日間、パシフィコ横浜で「第95回日本感染症学会学術講演会」がWebを併用したハイブリッド形式で開催されます。私はその会の会長を務めることになっていますが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっている中での開催となりますので、例年以上に意義深い学術講演会として成功に導きたいと思っています。また、私は日本呼吸器学会の代表として「日本医学会連合会」創設に向けた政府への提言をまとめる委員会の委員も仰せつかっています。この提言は日本全体の健康危機管理と疾病予防を目指すもので、この1月の提出を目指しています。その組織本部は東京に置かれることになるでしょうが、今回の新型コロナウイルスの状況を鑑みて北海道や沖縄にサテライト機能を持つ施設が必要ではないかと私が提案し、提言に盛り込んでもらっています。こちらもいい方向に導けるようにしたいと思っています。

竹之下 新型コロナウイルス感染症がここまで長期にわたり社会に影響を及ぼすとは、多くの専門家も予測していませんでした。社会の変化は急速で、ますます先行きが見通せなくなっていますが、それを悲観しても仕方ありません。むしろ、その変化を進化に変えようという意識が求められているのだと思います。そのためには緻密な思考と深い洞察力と素早い行動力の3要素が必要です。この3つを突き詰めながら、常にイノベーションの起点となる大学へと私たちは進化していききたいと思います。

東 今年が社にとって、東京支店開設55周年の記念すべき年です。復帰前から本土と沖縄の懸け橋

新時代沖縄を展望し得る骨子案づくりを進めてまいります。

また、新沖縄発展戦略は、新型コロナウイルスにより深刻な影響を受けた県経済の回復に全力で取り組むと共に、コロナ収束後においては世界経済やアジアのダイナミズムは回復するものと考えており、量からの質への転換を図りつつ、インバウンド需要への対応や臨空・臨港型産業の集積など、アフターコロナを見据えた施策展開を推進してまいります。

さらにSDGsの推進については持続可能な沖縄の発展と誰一人取り残さない社会の実現に向け、全県的な展開につなげていくことが重要であると考えております。沖縄21世紀ビジョンの基本理念や将来像が、SDGsの理念や17のゴールと重なるところが多いことから、ビジョンに掲げる将来像の実現に向けてSDGsを推進することで、県民への事業の「見える化」と同時に取り組みへの参画を促して、経済・社会・環境の3側面が統合した持続可能な社会の実現を目指すこととしております。

高良 ありがとうございます。沖縄ツーリストの東会長は、多くの公職を通して県との連携を図っていらっしゃいます。御社は県の定める「おきなわSDGsパートナー」にも登録されていますので、併せてご意見を伺えますか。

東 復帰50周年を来年に控え、今年はとても重要な年になると考えています。知事からもお話があつたように、巷ではデジタルトランスフォーメーションが叫ばれていますし、2022年4月から始まる第6次沖縄振興計画を策定する最後の年ともなります。私

として頑張ってきた先人たちの功績と、これまでご愛顧いただいたお客様に感謝をしつつ、何としても沖縄観光を復活させる原動力になっていきたいと考えています。

真栄田 今年6月には国民の皆さんのワクチン接種が始まる見込みです。できれば国産ワクチンを国民全員分確保するのが理想ですが、いずれにせよそれでコロナ対策はひとまず終わりにするでしょう。しかし、それまではコロナ対策に集中して緊張感を継続していかなければいけません。私は今年72歳の年男ですが、まずは自分が感染しないようにする。そして7月以降は、これまで後回しになっていた従来の基礎疾患に対する対応をしっかりやっていきたいと思います。

高良 元来ウイルスは、SARS や MARS のように数年間で下火になっていく可能性があります。今回の新型コロナウイルス感染症はワクチンや治療薬の開発が行われていきますから、それが出来上がるまではできるだけ感染しないようにし、感染して苦しんだり、死亡することは避けるべきです。そのためには三密を避け手洗いやうがい、励行は当然として、できるだけ検査をして感染の有無を確認し、感染していれば活動を控えて感染拡大防止に努めていくことです。自分を守ることが家族や地域を守ることになり、そして沖繩を守ることがつながるということですね。それでは皆様ありがとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

一同
よろしくお願いいたします。

が所属する沖縄経済同友会では「新・沖縄振興計画2022」日本の宝、世界の宝、優しさあふれる島々を目指して」をまとめ、昨年11月、沖縄県に対し未来の沖縄のあるべき姿を提言したところです。もちろん、新型コロナウイルス感染症による経済の大打撃から復活する年としなくてはならないのは当然です。

また、弊社はSDGsを意識して取り組んでいます
が、2030年に向かって具体的に行動を起こす年にな
ると思っています。私は沖縄県ユネスコ協会の会長
を務めておりますので、今年のやんばると西表島の世
界自然遺産への登録を心待ちにしています。もつとも
つと沖縄の森と海を守つていかないと痛感
しているところです。

安全・安心の島と経済の礎を築く取り組みを展開

高良 さて最後になりますが、あらためて皆様から
新年の抱負を伺いたいと思います。玉城知事には県民
への新春のメッセージという形で一言お願いいたしま
す。

玉城 はい。新型コロナウイルスの感染拡大により、沖縄県においても入域観光客数が大きく減少し、観光業をはじめとする多くの産業に深刻な影響が出ています。沖縄県としては、感染拡大防止を最優先に取り組むとともに、経済再開の前提となる「安全・安心の島沖縄の構築」と「県民の事業と生活を維持し、将来を先取りした経済の礎を築く取り組み」を展開し、ウィズコロナからアフターコロナの社会に向け、県民の皆様や各業界・団体とも一丸となつて取り組んでいきたいと考えています。

医療法人 陽心会グループ

医療法人 陽心会

社会福祉法人 陽風会

理事長 高良 健

有限会社 ヘルスサポート

取締役 高良 まき子

大道中央病院

那覇市安里1-1-37 TEL.098-869-0005(代)
リハビリテーション部 TEL.098-869-0050

メディカルプラザ大道中央

那覇市字大道123 TEL.098-886-0007(代)
一般内科部門 TEL.098-886-0115

循環器部門 TEL.098-886-0115
看護部 TEL.098-886-0115

人工透析部門 TEL.098-886-5151
検査部門 TEL.098-886-5678

介護老人保健施設 やすらぎの里

那覇市安里3-1-57 TEL.098-869-0030
グループホーム たかまーみの家

那覇市字大道94-3 TEL.098-887-0081

小規模多機能型ホーム 大道

那覇市字大道94-3 TEL.098-885-0018

グループホーム 大道が丘

那覇市字大道94-3 TEL.098-885-0036

小規模多機能型ホーム 三原

那覇市三原2-8-10 TEL.098-040-0027

訪問看護ステーション 陽心会

那覇市安里64-9-1F TEL.098-869-0620

那覇市地域包括支援センター 若狭

那覇市若狭2-1-10 TEL.098-863-1165

那覇市地域包括支援センター 新都心

那覇市銘町1-6-15 TEL.098-941-2252

〈訪問介護事業所〉

那覇市字大道128 TEL.098-885-0033

ケアハウス 常夏の島

那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0036

小規模多機能型ホーム 牧志

那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0025

有料老人ホーム 星の館

那覇市安里1-1-17 TEL.098-917-1262

特別養護老人ホーム 前島

那覇市前島2-18-10 TEL.098-894-8039

那覇市若狭老人福祉センター

那覇市首里末吉町2-14 TEL.098-886-3510

那覇市豊川老人福祉センター

那覇市豊川12-3-11 TEL.098-853-1139

那覇市辻老人憩の家

那覇市辻2-14-1 TEL.098-864-0580

有料老人ホーム 三原の家

那覇市三原1-26-40 TEL.098-832-5981

有料老人ホーム 牧志

那覇市牧志2-9-43 TEL.098-862-1331

有料老人ホーム 西町

那覇市西1-20-19 TEL.098-863-7884

デイサービスセンター リバーサイド

那覇市安里1-1-18-3F TEL.098-862-1501

有料老人ホーム 健康の杜

那覇市安里3-1-47 TEL.098-941-0070

有料老人ホーム 松風邸

那覇市辻2-10-14 TEL.098-869-8557

ヒルズガーデン那覇

那覇市字松川120-1 TEL.098-885-0300

デイサービスセンター 松川

那覇市字松川120-1 TEL.098-885-0300

デイサービスセンター 若狭海岸

那覇市若狭1-21-1 TEL.098-941-0110

那覇市若狭老人福祉センター

那覇市字大道127 TEL.098-886-0066

有料老人ホーム 大道中央

那覇市字大道127 TEL.098-886-0061

デイサービスセンター 若狭

那覇市若狭3-5-17 TEL.098-869-6122

有料老人ホーム 若狭

那覇市若狭3-5-17 TEL.098-869-0087

有料老人ホーム 若狭別館

那覇市若狭2-5-12 TEL.098-863-3320

小規模多機能型ホーム 若狭

那覇市若狭3-4-1